

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|-----------------|------|-----------------|
| ○事業所名 | 放課後等デイサービスみらいの風 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和 6年 11月 1日 | | ～ 令和 6年 11月 29日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 22世帯 | (回答者数) 16世帯 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和 6年 12月 2日 | | ～ 令和 7年 1月 10日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 6名 | (回答者数) 6名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和 7年 2月 7日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|---|
| 1 | 活動環境の中に多岐にわたる母体法人施設が設置されており、法人他部署との連携を密に図る事が出来る環境にある。 また、放デイに通所する子どもたちに理解がある大人と活動場所以外でも交流を図ることができる環境にある。 | 法人内施設の活用調整が円滑に行えるため、児童の活動意欲・状況に合わせた活動を提案し、プログラムの自由度を高めている。また、応援職員の派遣や行事等を通じた交流を密に実施している。 職員が関係者と接する機会も多いことから、ロールモデルとしてあいさつや会話を実践することで、ソーシャルスキルを学ぶ機会を提供している。 | 活動環境をより活かせるような活動用品の準備、活動プログラムの更なる検討が望ましい。 法人内他部門との調整にあたっては、子どもたちにも同行を機会を設け、自ら物の貸し借りといった交渉を行う実践経験を積むなど、子どもたちのソーシャルスキル向上機会を増やしていく。 |
| 2 | 専門性をもつ多職種で職員が構成されている。それにより、多角的な評価視点の取り入れやそれぞれの専門を生かした支援の展開ができています。 | 法人内の専門同職種と学びを深める機会がある。新たに医療等の別分野からの視点も取り入れる機会を持っている。 | 施設内の研鑽機会の中に事例検討をより取り入れていき、法人の専門職も交えた検討で支援力をさらに高める取り組みを検討していく。 |
| 3 | 多様なツールを用いた言語・視覚的な情報連携を、保護者・関係者と日常的に図っている | 児童の強みを中心とし、時差のない情報共有に努めている。また、具体的情報理解を促すための写真データの活用も行っている。 | 要請に応じた活動場面の見学等の案内を進めていく。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 訓練等の間接支援に関する情報提供が不十分。 | 実施している訓練の保護者認知度が低い。従来の周知方法(お便り等による紙面報告)では不十分。 | 訓練場面等の画像を用いた周知や訓練内容の開示(フロー等を用いた流れの提示)を検討していく。 |
| 2 | 独自の保護者会開催が未調整。 | 保護者会等について企画開催が進められていない。家族の希望に差異がある状況と母体法人の感染対策等の諸事情により、開催調整の困難さがある。 | 受動的な情報収集・提供であったため、今後はより能動的な情報収集に努め、お便りでの情報提供頻度を上げていく。 |
| 3 | | | |